



町の話題

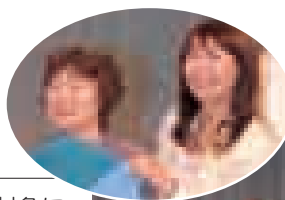


火の取り扱いに注意を! 秋の火災予防運動出動式

11月6日から12日までの7日間、秋の火災予防運動が実施されました。初日にあたる6日は、金沢東根地区の丸子川河川敷で出動式が行われ、三浦勝二消防団長が「地域の安全を守るため、団員が一丸となってあらゆる災害に対応していこう」と力強く訓示を述べました。この後、放水訓練を行った団員は3地区に分かれて防火広報パレードを行い、火の取り扱いに注意するよう各家庭に呼びかけました。

お父さん、家事や育児に協力していますか? いきいき大学で男女共同参画出前講座

11月10日に美郷町公民館で生涯学習講座「いきいき大学」の受講生を対象に男女共同参画出前講座が行われました。第1部では、パーソナルカラーリストの遠藤真智子さんが、色が持つパワーについて講演。続いて第2部では、美郷町男女共同参画住民懇話会による朗読劇「私らしく あなたらしく」が上演されました。委員の皆さんは、どこにでもあるような平凡な家族に扮し「人を思いやる大切さ」や「自分らしく生きる」ためのヒントを秋田弁で表現。参加者からは「笑いの中にも気付かされるのがたくさんあった」という感想が聞かれました。



◀参加者に色をコーディネートする遠藤さん(写真右側)



▲町男女共同参画住民懇話会の皆さん



美郷産品は今年も大好評 OTAふれあいフェスタ2011

11月12日と13日の2日間、友好都市・東京都大田区の平和島競艇場などを会場に「OTAふれあいフェスタ2011」が開かれました。美郷町からは町内の団体などから約40名が参加。各コーナーで、美郷米をはじめとした安心・安全な美郷産品を販売しました。開催期間中は好天に恵まれ、来場者数は過去最多を記録した去年と同じ延べ35万5千人。会場は、早朝から美郷産品を買い求める人で賑わいを見せました。

日本樹木医会秋田県支部

町指定文化財「天陪の一本杉」の樹勢診断を実施

11月19日に飯詰字東西法寺の町指定文化財「天陪の一本杉」の樹勢診断が行われました。日本樹木医会秋田県支部の会員やボランティアなど約20名が参加し、幹周りや枝の長さを計測したほか、根元の土の入れ替え作業を行いました。一本杉は推定樹齢約300年。江戸時代の紀行家・菅江真澄の「月の出羽路」に記述されているほか、後三年合戦で源義家が敵兵を埋めた塚に植えた杉だという伝説も残っています。指定文化財として町教育委員会が手入れを行ってききましたが、近年、樹勢の衰えが顕著になっていました。



穏やかな語り口調で観衆を魅了 語り部交流会inあきた

11月19日に美郷町公民館で「語り部交流会inあきた(秋田県主催)」が開かれ、約300名が参加しました。会では、元NHKキャスターで大阪芸術大学教授の平野啓子さんが菅江真澄のエピソードなどを紹介。感情のこもった語りで観衆を引き込みました。このほか、県山本地域振興局長の菅原徳蔵さんによる講演や松田町長らと交えた意見交換会が行われ、来場者は古来から農村に受け継がれてきた「結い」の精神の大切さを再認識しました。

▲平野啓子さん

ご飯とおかず バランスのとれた朝食で脳を活性化 東北大学教授 川島隆太さんを迎えて 「親力アップ講演会」

11月20日に美郷町公民館で「第1回親力アップ講演会」が開かれ、テレビでおなじみの東北大学加齢医学研究所教授・川島隆太さんが「早寝・早起き・朝ごはんと子どもの脳の発達の関係」と題して講演しました。講演会は町全体で子どもたちを支援する体制を推進しようと、11月の「子ども・若者育成支援強調月間」に合わせて町教育委員会が主催しました。

川島さんは、睡眠時間や朝食が脳に与える影響について研究データを使って解説。パンだけの朝食よりも、ご飯とおかずをバランスよくとった朝食の方が脳の働きを活性化させることを説明しました。この日の来場者は約200名。会場では、講演を聴きながら熱心にメモを取る人の姿が見られました。



「何かを得れば、何かを失う」。いくつかある私の人生訓の一つです。例えばお金と時間。学生時代はお金がなく、時間はたっぷりありました。就職後は生活できるお金は得ましたが、代わりに自由な時間や生活水準の向上に必要なエネルギーを原子力発電で得ました。しかし今回の事故



▲OTAフェスタで美郷町をPRする松田町長



「TPPに思う」

美郷町長 松田 知己

から分かるように、私たちは未来にわたり安全でありたい生活基盤への安心感を失いました。

私は、こうした考え方はいろいろなことに適用されると思っています。だからこそ物事の判断の際には、「この判断で何を失うのか。その上で、得るものが失うものより未来に意義あることかどうか」を十分に思慮し、判断に後悔を付き纏まとわせない努力をしてきているつもりです。

さて、TPP。「交渉参加に向けて関係国との協議に入る」との表明ですが、この表現を私たちはどう解釈すればいいのでしょうか。仮に参加を前提にしているとするならば、国は得るものと失うものをきちんと思慮しているのでしょうか。その上で、参加によって得るものが失うものより日本の未来に意義ありと整理できているのでしょうか。

か。報道を頼りに判断すれば、残念ながら私には整理されていないように見えません。一方、私は現状のままでもいいとも思っています。私が入手できる狭い範囲の情報に頼れば、現状で推移した際の未来にも明るい展望を見出せないからです。

いずれ、参加なのか不参加なのか時間の経過とともに分かってくると思いますが、どちらにしても国会議員の方々には、このたびの問題で得るものと失うものについて、将来に展望を見出せる思慮とともに私たちに提示してもらいたいと思います。その上で、これまで繰り返してきた制度や政策での急ハンドルを避け、もうようようお願いしたいと思いません。私たちはその思慮等を踏まえ、向かうべき方向に取り組みが遅きに失したとならないよう、できるだけだけの対応に努めていきたいと思っていますので…。

今回は国政へのお願いでした。ちあきなおみさんの「四つのお願い」のように欲張りません。「一つのお願い聞いて、聞いてくれたら〜」です。